

再びその人らしい生活に

# ふれあい ひろば

2020年 冬号 Vol.91

愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション  
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 心臓リハビリテーションとは？
- 2面 【新連載】セラピストだより / 感染制御看護師の地域活動
- 3面 地域クリニックとの連携の中で②
- 4面 患者さまだより② / 高槻在宅サービスセンターだより



近年、医学技術は著しく進歩し、循環器疾患においても薬剤溶出冠動脈内ステント、大動脈ステントグラフト、経カテーテル大動脈弁留置術、不整脈に対するカテーテルアブレーションなどの新規治療の対象となる患者様も年々増えてまいりました。

一方、我が国の主要死因の中では心疾患はむしろ増加傾向にあり、昭和60年に脳血管疾患を抜き、現在悪性腫瘍に次ぎ全体の15%強を占める第二位の死因と

なっています。中でも心不全の人口に対する増加は著しいものがあり、心不全パンデミックとも言われ、認知症などと並ぶ今後の日本医療における主要課題となっています。心疾患の治療としてまずは内服薬による治療、そして必要時にはカテーテル治療や手術治療などの侵襲的治療が真っ先に頭に浮かぶと思います。

しかしこれらの治療効果を最大限に発揮するためには適切な生活、栄養管理、適切な運動療法が必須のものとなります。心臓リハビリテーションは後者の生活、栄養管理、運動療法などの包括的な管理・治療を行うものとして、近年その重要性が高まっています。特に適切な運動習慣は心疾患の再燃を予防し、心機能を保つ上でも重要です。心疾患の治療はしたけれど、どの程度の運動をしたらいいのかわからないという方はまずは

**当院心臓リハビリテーション外来**  
(毎週火・金曜日、13:30~16:30)

にご相談ください。





# 最新機器を取り入れ 安心できる理学療法を！

理学療法科 科長 池上 泰友



Honda歩行アシスト

当科では、入院患者様や地域の人たちに対する理学療法を行っています。

入院や治療に伴う合併症を防ぎ、再びその人らしい生活を取り戻すために理学療法は欠かせません。

理学療法とは病気、けが、高齢、障がいなどによって運動機能が低下した人々に対し、運動機能の維持・目的に運動療法や物理療法を用いて行う治療法です。

近年、理学療法の取り巻く環境は大きく変化しています。さまざまな医療機器が開発され、安全性はもちろんのこと、楽しく機能回復ができるようになっております。当科ではコンピューター制御で足の振りだしを支援するロボットリハビリテーション機器（Honda歩行アシスト）や、立つことが難しい方でも歩く練習を行う免荷式歩行トレーニング機器（BWSTT、免荷式リフト）、認知機能をトレーニングする自転車エルゴメーター（コグニバイク）などさまざまな機器を用いて機能回復をサ

ポートしています。

また、退院後も地域で自分らしく過ごしたいという思いを支援するために心臓リハビリテーション外来や装具外来、脊髄損傷外来など他院ではほとんど提供されていない外来も行っていきます。我々の思いは今も昔も変わらず、地域に根差した病院であり、今後も地域の皆さまに信頼される理学療法が提供できるよう取り組んでいきたいと思っております。

何卒宜しくお願い申し上げます。



免荷式歩行リフトPOPO

## リハビリテーション 専門病院における 地域活動

院内感染対策室 認定感染制御実践看護師 市橋 卓浩

国立国際医療研究センター病院などの研究チームによると、抗生剤が効かない「薬剤耐性菌」によって、2017年に国内で8千人以上が死亡したというニュースが報道されました。薬剤耐性菌と聞いてピンとくる方は少ないと思います。しかし薬剤耐性菌の問題は今や病院の中だけの問題ではなく、国際的に抗生物質の使用を控えていこうという流れになっています。

当院はリハビリテーション専門病院としては全国的にも少ない感染管理加算1を取得し、薬剤耐性菌対策や抗生物質の適正使用の対策を行っていますが、今や感染対策は病院の中だけの取り組みでは無くなってきています。また地域の診療所や施設で対応

に苦慮されてご相談を頂くことも増えてきていることもあり、病院外に向けた感染制御指導・相談を行う運びとなりました。

地域医療を支える開業医の先生方に対しては、出張のICTラウンドを通して地域に還元していこうというものになります。また、愛仁会ふれあい広場では様々な催しが企画され、地域の住民の方々も多数参加されておりますので、インフルエンザの予防教室なども予定しております。先日は、地域の潜在看護師に対する感染研修なども実施しております。こういった草の根の取り組みが、地域全体の感染防止につながっていくと信じて、今後も活動を続けていきたいと思っております。







地域クリニックとの連携の中で

Vol.25



内科 胃腸科  
小児科 外科

## 摂津診療所

〒569-0814大阪府高槻市富田町3丁目1-14

TEL.072-696-0505

摂津診療所

検索

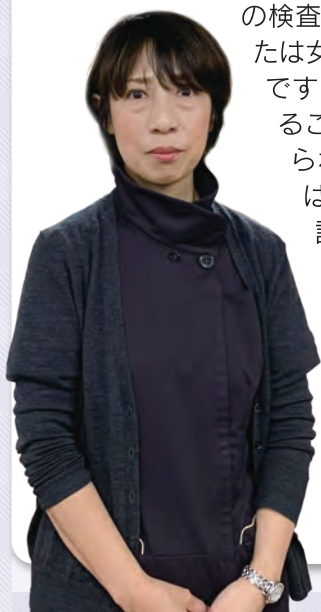
<https://www.settsu-shinryousyo.jp>

日々の診療でお世話になっている摂津診療所 竹内 望 院長先生にインタビューさせていただきました。

摂津診療所は1959年1月4日、竹内先生のお父様が開業されました。約10年後に現在の阪急富田駅前に移転され、2002年6月に竹内先生が継承されています。継承された際にはプライバシーに配慮し、診察室等を個室にするなどの改装も検討されたそうですが、看護師や受付事務の動きなど、診療所の全てを把握するためにはオープンなスペースの方がいいと考えられ、改装されることなくお父様から引き継いだ診療所そのまま診療されておられます。

竹内先生のご専門は消化器内科ですが、一般診療はもちろん、小児科や傷の処置など、地域のかかりつけ医として様々なご病気に対応されています。中には専門外のご病気でも、どこで診てもらえればいいのか先生を頼って来られることもあるそうで、患者様からとても厚い信頼を得ておられます。大学病院にも非常勤として勤務されていることもあり、小児から高齢者まで様々な年代の患者様を診療されている上で、そこでの他科とのつながりが診療所でとても役立っておられるとのことでした。

胃カメラや大腸カメラ、腹部エコーなどの検査も行っています。検査は男性医師または女性医師の選択で受けることが可能です。最終的に2人の医師の目で診断することで、検査の精度を向上させておられるとのことでした。検査に関しては、ホームページにて予約可能で、初診の患者様でも予約ができます。中には開業医の先生からの勧めで、来られる患者様もおられるとのことでした。



◀摂津診療所 竹内望 院長

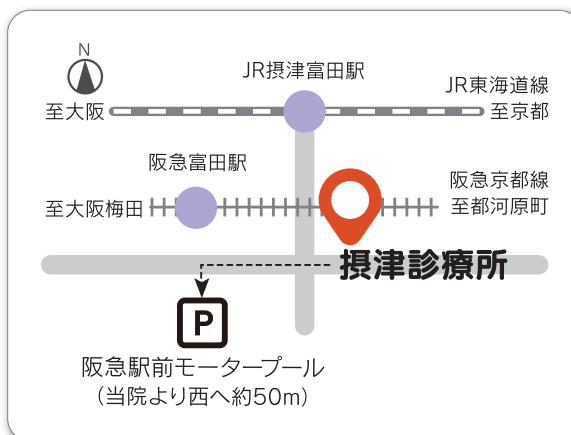


### \*診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:30~12:30	●	△	●	●	●	●
17:00~19:00	●	—	●	●	●	—

【休診日】火曜午後・土曜午後・日曜・祝日  
△…火曜午前は予約のみ  
日曜日に月1回予約検査あり  
詳細についてはお問い合わせください。

### \*アクセス 阪急富田駅すぐ、JR摂津富田駅より1分。



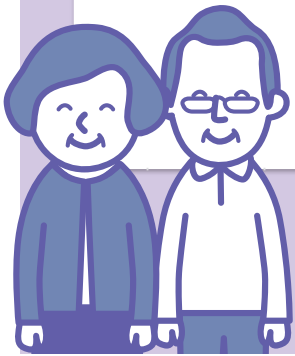
竹内先生、いつも患者様のご紹介を快く引き受けいただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

# INTERVIEW

## インタビュー

地域医療部 寒川 優希

〇さんは、2019年8月に左大腿骨骨折を受傷され、リハビリ目的に当院で入院されました。入院当初より自宅退院を目標としてリハビリに励まれご家族様も、トイレのお手伝い等退院するための準備を進められました。当院入院中にご主人様が圧迫骨折を受傷されましたが、ご主人様の強い希望もあり11月に自宅へ退院されました。



### Q. 自宅での生活はどうか？

**〇さん：** やっぱり家はいいいね。デイサービスに行ってお菓子食べたり、カラオケ歌ったり、湯舟にも入れてくれたりします。今の一番の楽しみはご飯食べることやね。げそ天のコリコリしておいしい所が好きですね。

**ご主人様：** あの時家に連れて帰るって言ったことを後悔したこともありましたが、一緒に住んでいる長女夫婦もサポートしてくれ、私の腰のことも気にかけてくれるので、できる限り頑張りたと思っています。

**長女様：** 12月から訪問診療から通院に切り替えました。休みの日に連れて行っています。



今回のインタビューで一番印象に残ったことは、今まで60年間自分を支えてくれたから、今度は自分の番だと思い自宅退院を選んだとご主人様が話された場面でした。ご夫婦のあたたかい空気感を感じました。お忙しい中対応いただき、ありがとうございました。



## 愛仁会高槻在宅サービスセンターだより

9月の退院後、訪問リハビリテーション・デイケアご利用で、みるみる歩行が上達してきたTさんをご紹介します。

Tさんは、6月に自宅で歩行が不安定になり、脳梗塞と診断され急性期病院に入院後、当院にリハビリ目的で転院して来られました。入院当初、歩行は歩行器的制御もできない状態でしたが、退院までのリハビリで見守りと軽介助で歩行ができるようになりました。

退院時は、まだふらつきがあり歩行の実用性が低いという判断もありましたが、デイケアでのリハビリと訪問リハビリの指導を受けることで在宅生活をスタートすることにしました。Tさんは、奥様と二人暮らしで、奥様の不安は、一夫を知る限り、デイケアのようなどころには馴染んでくれないと思う一とい



### デイケア(通所リハビリ)でリハビリを頑張り、レクリエーションを楽しんでいます

高槻在宅サービスセンター ケアプランセンター 主任 志場 幸子

う心配がありました。しかし、もとのように歩けるようになるというリハビリ意欲は高く、続けてリハビリを受けるといふことで利用することになりました。普段は真剣な表情が多いTさんですが、今では、施設に到着した途端笑顔が見られ、リハビリの時間以外も楽しんで下さっています。訪問リハビリの経過も、デイケアに行かない日は、朝・夕と介助なく奥様の見守りで散歩ができるようになり訪問リハビリは3ヶ月で終了されました。

今後の目標は奥様との行動範囲を拡大して今以上の楽しさを持っていただきたと思っています。

ご入院している方々は退院が決まって嬉しい反面、退院後の不安が強いと思いますが、介護保険のサービスにはさまざまな在宅生活を支援するサービスが揃っています。

私たちケアマネジャーは安心できる生活支援を心がけております。